



(公社)関西シルバーサービス協会主催の研修において、公益社団法人大阪介護支援専門員協会 看護師・主任介護支援専門員 雨師みよ子先生より「介護職のための感染予防知識について」のお話を伺いました。今回はそのお話を基に、介護に携わる方むけの感染予防についてを特集いたします。

### 感染の定義と感染症

感染とは、微生物が付着した場所で定着し、分裂・増殖することです。

微生物が、ヒトの排除能力(免疫など)を超えて侵襲(しんしゅう)する時、「感染」が成立します。生体にさまざまな障害が現れた場合、発病(発症)となり、この状態を「感染症」といいます。感染症の原因となる病原体は、主にウイルス、細菌、真菌(カビ)、原虫などがあげられます。これらの病原体が体内に侵入し、発熱、下痢、咳(せき)などの症状を引き起こします。

### ～ヒトからヒトへ 感染経路から知る感染症～

- ①接触感染：皮膚や粘膜の直接的な接触(性感染症など)と、手や物などを介した間接的な接触で、多くは口から体内に侵入することで感染。(感染性胃腸炎など)
- ②飛沫感染：くしゃみや咳からでる細かい水滴・つば等を鼻や口から吸い込むことで感染。飛沫の飛び散る範囲は1～2m以内。(インフルエンザ、かぜ症候群など)
- ③空気または飛沫核感染：空気中を浮遊する、病原体を含んだ飛沫核を吸い込むことで感染。(はしか、結核など) ※飛沫核(ひまつかく)・・・飛沫中の水分が蒸発した微細な粒子。

### ～高齢者の特徴～

- 抵抗力が低下しており、発症すると治りにくく慢性化しやすいため、注意が必要。
- 軽度でも他の病気を併発して、重い症状になることもある。
- 呼吸器感染や尿路感染も多くみられる。

☆予防と早期発見が重要

### 基本的な予防方法と、介護の現場における留意点

基本的な予防方法として、**手洗いやうがい**を行い、身の回りを清潔に保ちましょう。吐いたものや便の処理の際には、**手袋やマスクを着用**し、適切に処置を行いましょう。部屋の換気、適度な温度管理を心がけましょう。

### ～介護現場における感染予防～

- 訪問ウェアへの着替え・・・使用後は、可能であれば自宅へ持ち帰らず、事業所内で洗濯する。
- 予防に必要な備品の準備・・・マスク、手袋、消毒液など(その人専用で使用するのが望ましい)
- 訪問計画の確認・・・感染症の人がいる場合は、その日の最後に訪問するなど、ケアマネジャーと訪問順序を相談。
- 手洗い・うがいの実施・・・手洗いはサービス提供の最初と最後に行う。または速乾性の手指消毒剤などを利用する。
- 感染症は早期発見、適切な処置が大切！・・・サービス利用者の全身状態を観察し「いつもと違う」事に留意する。
- 戻った際にも、手洗いうがいを実施・・・手を拭く際は、ペーパータオルが望ましい。(手を乾燥させる事)
- 使用した手袋やエプロンの始末、持ち帰った物の始末・・・持ち帰った廃棄物は適切に処置をする。
- 使用した物品や器具の処理・・・取扱いに十分注意し、機材等は消毒を行う。

感染症は、**感染させないこと、感染しても発症させないこと**が大切です。病原体を**持ち込まない**、病原体を**持ち出さない**、病原体を**広げない**よう努めましょう。

☆介護する側の健康管理を怠らない！

健康な人が感染する可能性は低いが、**感染の媒体にならないよう留意する。**

[参考資料]:(公社)関西シルバーサービス協会 研修資料『介護職のための感染予防知識について』講師:雨師みよ子